

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2026 年度日本陸上競技連盟競技規則並びに、本大会の申し合わせ事項により実施する。また、本競技会種目のうち、男女競歩・男女リレーを除く選手権種目をWR k 種目対象種目とする。

2 招集について

- (1) 招集所は、第2コーナー出入口付近（1500m スタート付近ゲート）外側に設ける。
- (2) 招集所は、当該種目の選手以外の立ち入りを禁止する。
- (3) 種目別招集開始・完了時刻は、プログラムの競技日程に記載している。

種 目		招集開始	招集完了
トラック競技予選	1～3組	30分前	15分前
	4～6組	15分前	競技開始時刻
	7～9組	競技開始時刻	15分後
	10～12組	15分後	30分後
トラック競技 決勝 (男子5000m以外)		30分前	15分前
男子5000m 決勝	1組	30分前	15分前
	2組	15分前	競技開始時刻
跳躍競技		60分前	45分前
投てき競技（ハンマー投・やり投）		55分前	40分前
投てき競技（砲丸投・円盤投）		45分前	30分前

- (4) 招集の方法については、次の通りである。

- ①招集開始時刻に招集所で競技者係の点呼を受ける。競技者は招集完了時刻（移動開始時間）5分前までに招集待機場所で最終点呼を受けなければならない。その際、アスリートビブス・スパイクピン・商標の点検を受ける。トラック競技のみ腰ナンバー標識を受け取る。
- ②携帯電話等、競技規則TR6.3.2に関わる機器を持ち込んでいないか確認を受ける。
- ③代理人による最終確認は認めない。多種目を同時に兼ねて出場する競技者は、最初の種目の招集開始時刻前までに「多種目同時出場届け（招集所で配付）」を招集所に提出すること。
- ④招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権したものとして扱う。
- ④出場種目を棄権する競技者は、招集開始時刻までに「欠場届」を招集所に提出すること。
- ⑤リレー競技に出場するチームは、「オーダー用紙」（招集所に準備）を、各ラウンド第1組の招集完了時刻1時間前までに、招集所の競技者係に提出する。一度申告したらその後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。医務員の判断による変更は出場選手の変更のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。なお、「リレーメンバー変更届（医務員の判断による）」は大会総務にて配付するので必要に応じて申し出ること。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスのつけ方については、競技規則TR5.7及び5.8を遵守する。
- (2) 一般、学生、中学生は県陸協指定のアスリートビブスを使用する。アスリートビブスはメインスタンド下、室内走路の選手受付で2枚配付する。
- (3) 高校生は県高体連陸上競技部会指定のアスリートビブスを使用する。
- (4) トラック競技出場者は腰ナンバー標識をショーツまたは下半身の右側やや後方につける。3000m以上の競技の出場者は、胸と背中に特別アスリートビブスをつける。競技終了後は、特別アスリートビブスを回収する。
- (5) 腰ナンバー標識及び特別アスリートビブスは招集所で配付する。

4 競技場内への入退場について

- (1) 招集所から競技役員の誘導により競技場に入場する。
- (2) トラック競技の競技者はフィニッシュライン到着後、競技役員の指示により競技場退場口から退場する。また、入賞者は当該役員が表彰者控所に誘導する。
- (3) フィールド競技の競技者の退場については、競技役員の指示に従って退場する。また、入賞者は当該役員が表彰者控所に誘導する。

5 競技の抽選、及び番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順による。
- (2) トラック競技の決勝については、主催者が公平に抽選してレーン順を決め、その結果は招集所に掲示する。
- (3) タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定について、最終枠に同記録があるときの処置は、写真判定主任が0.001秒単位の実時間を判定して出場者を決定する。それでも決定できない場合は抽選とする。（競技規則TR21.2及び21.5）
- (4) CR（チャレンジレース）について
次の種目についてはCRを行う。

男子 100m	男子 200m	男子 400m	女子 100m	女子 200m
---------	---------	---------	---------	---------

予選通過者のうち9位以下の選手はCR（チャレンジレース）を行う。ただし、CRの記録により決勝進出者8名との順位が入れ替わることはない。

6 競技について

- (1) トラック及びフィールド内にはその競技を行う競技者並びに競技役員、補助員以外は立ち入ることはできない。
- (2) トラック競技の計時はすべて写真判定装置を使用する。
- (3) レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空ける。
- (4) 短距離走では競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- (5) 競技規則TR16.8を適用し、「TR16.7」「TR16.7.1」「TR16.7.2」により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
- (6) 4×100mRの第2、3、4走者は各自用意したマーカー（最大5cm×40cmの粘着テープ）を1個まで置くことができる。レース終了後は第1、2、3走者がチームのマーカーを取り除く。
- (7) 4×400mRにおける第3、4走者は競技役員の指示に従い、前走者が200mスタート地点（黄旗）を通過した順序で、内側から並び待機する。並んで待機している走者は、この順序を維持し、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められない。
- (8) 男子5000m、男子3000mSCの決勝は2組タイムレースで行う。
- (9) 競歩競技については、制限時間を設定する。（男子30分以内、女子35分以内にラスト1周に入ること。）
- (10) 跳躍競技及びやり投の競技者は、主催者が準備したものまたは承認したマーカーを助走路の外側（走高跳では助走路内）に2カ所置くことができる。また、サークルで行う投てき競技はマーカーを1カ所だけ置くことができる。
- (11) 三段跳の踏切板は、砂場から男子11m、女子9mの地点に設置する。
- (12) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
- (13) 次の試技時間は、超えてはならない。

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上*	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技**	2分	3分	2分

* 4人以上または各競技者の最初の試技

**残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

- (14) 走高跳と棒高跳で優勝者が決まり競技者が1人となり、世界記録かその他大会記録等に挑戦する場合には、定められた制限時間より1分長くする。

- (15) 競技者は勝手に競技場所を離れることはできない。(競技規則TR6.1)
- (16) 競技会規則CR18.5及び競技規則TR7の適用により、本競技会中に不当な行為(非社会的行為などが相当)で警告を2回受けた競技者は、本競技会における以後のすべての種目に出場できなくなる。
- (17) ふるさと選手制度を適用して国スポ種目に出場する他県陸協登録者の競技結果については、秋田陸上競技協会登録者と同様に取り扱う。ただし、秋田県選手権者については秋田陸上競技協会登録者のうち最上位の者とする。
- (18) オープン参加で出場する他県陸協登録者については予選の行われるトラック競技の決勝への進出、フィールド競技のトップ8への進出は認めない。
- (19) 競技規則TR6により、助力については、競技場内での助力は禁止するが、コーチングエリアでの助言及び録画再生機器を選手に渡すことを認める。ただし、メインスタンド前で行われる走幅跳・三段跳については安全上の理由から録画再生機器の選手への手渡しは認めない。

7 バーの上げ方について

- (1) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、最後の一人になるまでは次のとおりとする。(ただし、天候やその他の条件によって変更することもある。その場合は、跳躍審判長が決定する。)

種目	区分	練習	1	2	3	4	5	6	以降
走高跳	男子	1.65/1.83	1.70	1.75	1.80	1.83	1.86	1.89	3cm
	女子	1.35/1.50	1.40	1.45	1.50	1.55	1.58	1.61	3cm
棒高跳	男子	3.20/3.90	3.40	3.60	3.80	4.00	4.10	4.20	10cm
	女子	1.85/2.70	2.00	2.15	2.30	2.40	2.50	2.60	10cm

- (2) 棒高跳の公式練習はゴムバーで行う。
- (3) 任意の高さ及び棒高跳の支柱の位置で試技順に行う。

8 競技用具について

- (1) 競技者が本大会で使用する用具は、棒高跳競技のポールを除いては、全て主催者が用意したものを使用すること。ただし、競技場に備えていない投てき用具については持ち込みを認めるので、希望者は各種目招集開始時刻までに大会総務まで申し出る。その際、持ち込む投てき用具とともに「投てき用具検査申請書」を提出する。受け付けた投てき用具については「預り書」を発行する。検査に合格した投てき用具については一括借り上げし参加競技者間で共有できるものとし、競技終了後に「預り証」を確認の上、大会総務で返却する。
- (2) 練習用の個人の用具は、競技場内に持ち込んではいならない。

9 競技用靴について(競技規則TR5.2)

- (1) スパイクの長さは9mm以内、走高跳・やり投は12mm以内とする。これらのスパイクの直径は、少なくとも長さの半分が4mm四方の定規に適合し、数は11本以内とする。(競技規則TR5.3、TR5.4)
- (2) 靴底の最大の厚さはWA規則に従う。



←承認シューズリスト

10 結果発表と抗議について

- (1) 各種目の結果発表はアナウンスで行う。
- (2) 発表された結果に対する抗議は、競技規則TR8.2に定められている時間内(同一日に次のラウンドが行われる場合にはアナウンス後15分以内、それ以外は30分以内)に、各競技者自身または当該競技者の監督が、担当総務員を通じて審判長に対して口頭で行い、控室で裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金(2万円)を添え、担当総務員を通じて Jury に文書で申し出る。

11 表彰について

各種目の表彰は第3位まで行う。入賞者は決勝終了後に表彰者控所(室内走路)で待機する。

12 一般注意事項

- (1) 競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ等に表示されている商標は、「競技会における広告及び展示物に関する規程」に示すサイズ・個数を超えてはならない。これに違反したものに

- については主催者で処置する。【ウェアは着用時の大きさを判断する。】
- (2) 応急処置、その他健康上の問題が生じた場合は、メインスタンド下の医務室に連絡する。
 - (3) 競技場での疾病・傷害等の応急処置は主催者で行うが、以後の責任は負わない。
 - (4) 更衣室は更衣のみに使用し、荷物は個人で管理する。大会期間中の貴重品の保管は各自で行う。盗難にあってもその責任は負わない。
 - (5) 大会参加に際して提供された個人情報、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはない。
 - (6) 本大会が認めた報道機関が撮影した写真、動画、競技結果が、新聞・雑誌・大会報告書・ホームページ等で公開されることがある。
 - (7) 競技者が安心して競技に専念できるよう、盗撮行為が疑われるような「迷惑行為」の防止に向け、撮影者に対しては、本大会役員より撮影理由を確認される場合がある。
 - (8) 撮影禁止エリアでの写真撮影等は厳に慎むこと。
 - (9) 災害時（地震発生を含む非常時）は慌てることなく、大会総務の指示に従って行動する。なお、秋田県内で甚大な被害が確認された場合、競技を中止することもある。

練習会場の使用について

1 練習について

- (1) 練習は、各個人が指定された場所・時間で行い、事故防止には万全を期す。
- (2) 練習は担当競技役員の指示により、「練習会場の使用について」のとおり安全に十分留意して行う。
- (3) 室内走路での練習は原則禁止する。【特別な場合は、大会本部から連絡する。】

2 主競技場の練習について(大会期間中の棒高跳の練習のみ)

- (1) 主競技場のレーンの使用区分については、次のとおりとする。第4コーナーからホームストレートへの交点付近は危険なので特に注意する。
 - <主競技場のレーンの使用区分>
 - ①周回1～2レーンはタイムトライアル用。
 - ②周回3～5レーンはリレーのバトンパスを含めた流し用。
 - ③第1曲走路からバックストレートの6～9レーンは400mH。
 - ④ホームストレート3～5レーンは短距離。
 - ⑤ホームストレート6～7レーンは100mH。（少年共通種目を含む）
 - ⑥ホームストレート8～9レーンは110mH。（少年共通種目を含む）
- (2) スタートブロックやハードルなど練習に必要な用具は各自設置し、責任をもって片づける。

3 補助競技場の練習について

- (1) 補助競技場のレーンの使用区分については、次のとおりとする。ただし、当日の競技種目により区分を変更する場合もある。各レーンとも、第4コーナーからホームストレートへの交点付近は危険なので特に注意すること。
 - <補助競技場のレーンの使用区分>
 - ①周回1～2レーンはタイムトライアル用。
 - ②周回3～6レーンはリレーのバトンパスを含めた流し用。
 - ③第1曲走路からバックストレートの7～8レーンは400mH。
 - ④ホームストレート3～6レーンは短距離。
 - ⑤ホームストレート7～8レーンは100mH。（少年共通種目を含む）
 - ⑥ホームストレート9～10レーンは110mH。（少年共通種目を含む）
- (2) スタートブロックやハードルなど練習に必要な用具は、各自設置し責任をもって片づける。

4 投てき練習場の練習について

- (1) 投てき練習については安全面に十分配慮し、各団体の監督の責任において行う。
 (2) 投てき練習は、競技注意事項に記載した時間以外は認めない。

5 練習会場使用日程は次のとおりとする。

◎主競技場

	トラック 種目	跳躍 種目	投てき種目
7月 2日(木)	棒高跳のみ12:30～16:00		投てき練習には使用できません。
7月 3日(金)	女子棒高跳のみ7:30～9:00		
7月 4日(土)	男子棒高跳のみ7:30～9:00		
7月 5日(日)	雨天延期の場合 棒高跳のみ7:30～9:00		

◎補助競技場

	トラック 種目	跳躍 種目	投てき種目
7月 2日(木)	10:00～17:00		投てき練習には使用できません。
7月 3日(金)	7:00～17:00		
7月 4日(土)	7:00～17:30		
7月 5日(日)	7:00～16:00		

◎投てき練習場

	投てき種目			
	砲丸投	円盤投	やり投	ハンマー投
7月 2日(木)	少男10:00-15:00 男 15:00-16:00 女 16:00-17:00	少男10:00-13:30 少女13:30-15:00 男女15:00-16:00	男女16:00-17:00	
7月 3日(金)	男 7:30- 9:30 女 9:30-13:30 男女13:30-16:00	男 12:00-13:30 女 13:30-15:00	女 7:30- 9:20 男 9:20-13:20	男 15:00-16:00 女 16:00-17:00
7月 4日(土)	男女 9:00-12:00	女 7:30- 9:30 男 9:30-13:30		男女13:30-16:30
7月 5日(日)	男女 9:00-12:00			少男 7:30- 9:20 女 9:20-11:20 男 11:20-13:20

○スタッフ（補助員）について

参加各高校より協力をお願いします。（詳細は別ページ）